

……
……
……

……
……
……

……

……

……
……
……



な……っ!!

キ……
キサマあああつ!



姫に……
姫に何をしたあああつ!

……ムダですわ
……アレン様



この方はもう
言葉を話すことも
理解することも
出来ませんの

私を——
「本当のイリスを
手に入れたために
全てを失ったのです」
本当の……?



やあ……あん……
あむん……

は化け物……?

なんだ?
なんだこれは……?

……何を……
何を……
何を……



ああ……
先生……も……とお……

ああ……欲しいの……
コレ……お……ばい……
気持ちいい……いいの……

だから私の口から
お話ししましょう

私がここで知った事実
そして

ここにきてから
何かあったのかを

アトリアの微笑。
なんて偽物なんだと

「よし、何かガハッ……
グヘッ、グヘッ……」

チンポお……
くださいチンポが
欲しいんですっ

先生のキンクマ汁
イリスのスケベ穴に
くらさい!

メスアタのマンコも
ケツ穴もチンポ便器に
してええっ!

私はひとりの人間であり
ひとりの女の子なんだと
そして……

かけて……かけて
かけてかけてえっ!

素顔の私を
愛してくたさるのは
この方なんだと

イリスのスケベ顔に……
先生のチンポ汁いっぱい
ぶちまけてくらさいいっ!

……先生の人格
言葉……記憶……

でも
分かったんです

先生は私の代わりに
人を挿れたのだと

人間らしさは
このひと月の間
少しずつ消えて
いきました

そして
すべてを失っても
……私を愛して
くれていたのだと

違う……それはただの
下劣な性欲の塊!
愛すべき国民のもとへ
帰るんです! 姫っ!

離れられない……
今の私にとっては
外の世界こそ牢獄……

それに……
もう私の身体も……

ひ姫の胸が……
それに……?